

実践記録（小5・総合）

1 わらい

相手の気持ちを考えてネットや SNS に触れることの必要性を理解した上で、トラブルの回避策を考えることができるようにする。

2 手立て

- ・ 意欲を高めるために、話題の事例を活用する。芸能人やスポーツ選手などの事例を具体例として紹介することで、実態についての興味・関心をひくことができると思う。
- ・ ネット上の問題を日常生活につなげて考えるための疑似体験をさせることにより、よく考えて使わなければ、誰かに対する誹謗中傷は自分たちの間でも起こりうるということに気付かせる。

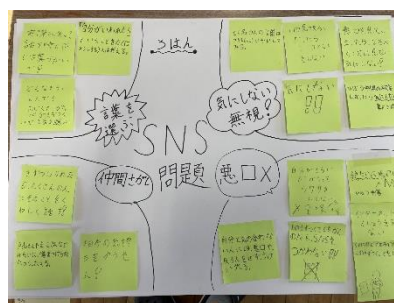
3 実践の様子

まず、授業の初めに 5 人の有名人の画像を見せ、共通点が何かを考えさせた。その答えは、「ネットや SNS での誹謗中傷の被害を訴えている」ということであるが、そのことに気付いた児童は数人であった。（手立て①）

「誹謗中傷」という言葉の意味を確認したのち、「ネットや SNS で人を傷つけたり、傷つけられたりしないために、気を付けることは何か考える」という本時のめあてを示した。有名人に向けて実際に送られた誹謗中傷の内容を紹介し、「口では絶対に言えないような内容を、何故ネットだと書き込めてしまうのだろうか」と問いかけ、「今からネットや SNS での書き込みを体験してみよう」と伝えた。「匿名」という言葉の意味を伝え、協同学習ソフトを使って匿名で意見を出させた。疑似体験の後には、「身近な人がこんな怖いことを書き込んでいるなんて、びっくりした」という声が上がった。匿名であることによって、意見がどう変わりうるのかについて気付かせることができたと思う。（手立て②）

そこで、本時のめあてについての考えを、グループで話し合った。似たような意見ごとに付箋紙をまとめていき、どのような考えが出たのかまとめていった。

そして、グループでまとめた意見を全体で共有することで、トラブルの回避策を考えることができた。



【児童のまとめの例】

4 成果と課題

- 今人気の芸能人や、オリンピックに出たスポーツ選手などの事例を紹介することで、誹謗中傷という本時の学習内容に興味をもたせることができた。
- 「匿名」を、協同学習ソフトで疑似体験させたことにより、ネットで発言が過激になったり無責任になったりといった現象が自分たちにも十分起こりうるということに気付かせることができた。また、普段記名式で使っている協同学習ソフトを使ったことで、記名と匿名を比較し、匿名の特徴に気付かせることもできた。
- それぞれのグループが、どのような意見を出し、どんな意見が出たのかを口頭での発表により共有したが、ここでタブレットを活用し、他の班がどのようにまとめたのかを実際に見合う活動ができるとよかった。